

「学びのユニバーサルデザイン(UDL)」ガイドライン

UDLのゴールは、学習者エージェンシー(学習者による学びの舵取り)であり、学習者が、目的と内省力をもち、効果的にリソースを活用し、戦略的に行動できることである

取り組み

のために多様な方法をデザインする



提示(理解)

のために多様な方法をデザインする



行動と表現

のために多様な方法をデザインする



興味やアイデンティティを大切にする

ためのオプションをデザインする (7)

- 選択と自主性を最適にする (7.1)
- 関連性、価値、意義を最適化する (7.2)
- 楽しさと遊びを育む (7.3)
- バイアス、脅威を与えるもの、気を散らすものに対応する (7.4)

知覚する

ためのオプションをデザインする (1)

- 情報の表示のカスタマイズをサポートする (1.1)
- 情報を知覚するために複数の方法をサポートする (1.2)
- 多様な考え方やアイデンティティを自分にとって意味のある方法で表す (1.3)

やりとり

ためのオプションをデザインする (4)

- 応答様式や学習の進め方や動きの多様性を尊重する (4.1)
- 教材、テクノロジー、ツール、支援技術アクセシブルにし、利用を最適にする (4.2)

努力や粘り強さを維持する

ためのオプションをデザインする (8)

- ゴールの意味と目的を明確にする (8.1)
- チャレンジとサポートを最適にする (8.2)
- 協働、支え合い、協同学習を促進する (8.3)
- 所属感とコミュニティを育む (8.4)
- 行動につながるフィードバックを提供する (8.5)

言語と記号

ためのオプションをデザインする (2)

- 語彙、記号、言語構造を明確にする (2.1)
- 文字や数式や記号の読み下し方をサポートする (2.2)
- 言語や方言の違いへの理解と尊重を促す (2.3)
- 言語や記号の使い方におけるバイアスに対応する (2.4)
- 多様な手段で表す (2.5)

表現とコミュニケーション

ためのオプションをデザインする (5)

- コミュニケーションに多様な手段を使う (5.1)
- 制作、作文、創造性のために多様なツールを使う (5.2)
- 練習や実践でのサポートを段階的に調節して流暢性を伸ばす (5.3)
- 表現やコミュニケーションの手段に関連するバイアスに対応する (5.4)

情緒的能力

ためのオプションをデザインする (9)

- 期待、信念、モチベーションを認識する (9.1)
- 自己と他者への意識を高める (9.2)
- 個別の、また、他者とのふりかえりを促す (9.3)
- 共感と修復的な関係や環境を培う (9.4)

知識を構築する

ためのオプションをデザインする (3)

- 既習の知識と新たな学びを関連づける (3.1)
- パターン、重要事項、全体像、関係性を際立たせ、検討する (3.2)
- 理解を深めるために多様な方法を使えるようにする (3.3)
- 学習の転移や一般化を最大にする (3.4)

方略を開発する

ためのオプションをデザインする (6)

- 意味のあるゴールを設定する (6.1)
- チャレンジを予測し、ゴール達成のために計画し、進める (6.2)
- 情報やリソースを整理する (6.3)
- 進捗をモニタする力を高める (6.4)
- 排他的な環境や実践をなくすことに挑む (6.5)